

各地の話題 加美町



2020年6月5日号掲載

地域おこし協力隊が農業の新しい風になる



加美町地域おこし協力隊の坂上昌哉さん（42）は、（農）月崎さくらファームで指導を受けながら、農業で町を盛り上げる活動に携わり3年目を迎える。

現在は、水稻・花卉・野菜栽培などに取り組み、特にトマト（加熱用品種ボルゲーゼ）は、種子を自家採種するなど特色を出したこだわりの栽培もしている。

坂上さんは青森県出身で、大学卒業後、仙台市内で一般企業に勤務したが、東日本大震災で被災したことがきっかけで、農業に携わって生活をしていきたいと考えるようになった。その思いを実現させるため模索していた時、地域おこし協力隊の制度を知り、加美町への移住を決めた。

坂上さんは、「地域の方との出会いによって、昔ながらの知恵を学んだり、農機具の様々な技術指導を受けたり、恵まれた環境の中で農業が出来ることがとても幸せ。来年3月で地域おこし協力隊としての任期は終了するが、このまま加美町に定住し、水稻を中心とした持続可能な農業を目指していきたい」と意気込みを語った。

【記事提供：加美町農業委員会】